

# 長崎県の一体的実施②

平成24年8月27日 事業開始

長崎県長崎こども・女性・障害者支援センターにおいて、県とハローワークによる女性や障害者の自立に向けた一体的支援等を効果的・効率的に実施

県

自立支援、生活相談の実施等

## ① 事業内容

- ・女性(DV被害者等)対象に支援
- ・障害者に対する支援

## ② 協定・事業計画

- ・長崎県知事と長崎労働局長の間で協定(\*)を締結
- ・数値目標を盛り込んだ事業計画を長崎県と長崎労働局及び長崎公共職業安定所の間で策定

\* 協定の実施等について相互に要望することができ、出された要望には誠実に対応する旨を規定

## ③ 運営協議会

- ・長崎県、長崎労働局、労使団体代表者をメンバーとする運営協議会を設置



国

職業相談・職業紹介の実施等

様々な事情を持つセンター利用者に対し、県が行う生活相談等の過程から就職を必要とする方に、併せて国の職業相談・職業紹介までをワンストップで実施することで、利用者に配慮した自立支援を実現。

## (1) 実施体制

### 県

・センター職員19名が担当

### 国

・職業相談員2名を配置

## (2) 事業目標と取組状況(25年度)

	事業目標	取組状況(平成25年10月末時点)
長崎県長崎こども・女性・障害者支援センターにおけるハローワーク長崎の併設	◇相談及び支援件数 年間 200件以上	◇相談及び支援件数 4月～10月 114件

# 一体的実施事業による就職成功例

女性：60歳代 希望職種：清掃（パート）

## ○ 本人の状況・背景

- \* 高校卒業後、約28年間で3回転職、清掃経験は4年程。取得した資格等は特になし。
- \* アルコール依存症の夫からDV被害に遭い、県外から帰郷し県北地域の実家から離れたハローワーク長崎管内にて就職活動したい意向。

## ① 抱える課題

- \* 実母が高齢のため、就業先は実家にすぐに駆けつけられる場所を希望だが、夫に所在が知られることに不安がある。
- \* 家探しと併行して就職活動を行うことによる精神面・体力面の不安がある。

## ② 支援内容・ポイント・経過

- \* 県の支援で家探しと並行して精神面（自己効力の低下・自信のなさ）での生活相談・自立支援を行った。
- \* 履歴書の書き方、就職活動の方法を説明。長崎の現状を確認させるため、希望職種や半日パートの求人票を提供。
- \* 入居先が確定する頃、本人の第一希望であるマンション清掃の求人を提供。本人の土地勘がないエリアのため、住居からのアクセスを詳細に説明。応募した時のメリット・デメリットをもとに考え、本人が意思決定できるような支援を行った。

## ③ 結果

※支援期間 1ヶ月

### 建物管理会社（マンション清掃業務）パート採用

- \* 一日5時間勤務、週6日程度。
- \* 事前に模擬面接を行ったこともあり、また、経験のある仕事であったため採用が決定した。
- \* 今回、県の自立支援・国の就職支援で連携が発揮された。

## ④ 就職支援ナビゲーターの所感

- \* 当初引越し後の仕事探しを希望したが、希望の職種にすぐに応募し就職を優先させるなどの柔軟性、「過去を振り返ることはせず一步一步進んでいきたい」との力強さ、本人の不安を解消する支援が意思決定を促し、採用に繋がったと思われる。

女性：50歳代 希望職種：園芸関係、介護

## ○ 本人の状況・背景

- \* 犯罪被害者で数年前に被害に遭い、うつ状態で強度のPTSDに陥ったが、心療内科に通院し、以前と比べ外出も可能となっており、主治医から「そろそろ社会復帰のために就労を考えてみては」と話されているが、どうしたらいいのかわからない。

## ① 抱える課題

- \* 事件について聞かれることでうつ状態が悪化したことがあり、そのため人間関係の構築に不安がある。

## ② 支援内容・ポイント・経過

- \* 精神面で不安があり、外出もできない状態であったが、県の支援で就職活動ができるまで改善された。
- \* 花卉園芸関係の求人の情報提供を行うが、求人数が少なく希望の職がなかったところ、面談を重ねるうち、「人の役に立つ仕事がしたい」「今まで支援してもらってきたので恩返しをしたい」との気持ちを持っており、話し方が丁寧でやさしく細やかな気配りをされる性格から福祉職も向いていると思われたが、知識・経験がないことから、福祉関連の求職者支援訓練を案内。
- \* 本人も福祉の仕事に対する希望があり応募した。

## ③ 結果

- \* 現在、求職者支援訓練受講中。講義内容の中で自分に当てはまり共感する部分があり、「辛かった過去だけど、今までのことは無駄ではなかったかもしれない」と思われるまでになっている。他の受講生との関係も良好で、以前よりも明るく落ち着き、生き生きとされている。
- \* 訓練終了後は、引き続き福祉職で就職支援を行いたい。

## ④ 就職支援ナビゲーターの所感

- \* いきなり就職ではなく、まずは資格取得のために訓練を受講し、他の受講者とのコミュニケーション等を図りながら社会復帰をすることが、本人の自信にも繋がると思われた。